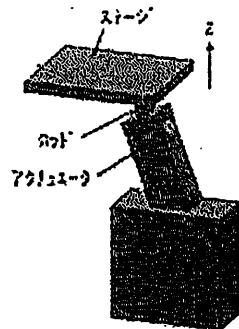
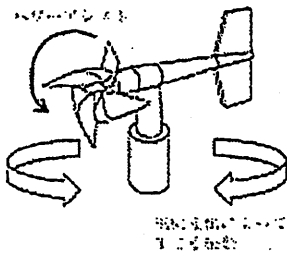




2017年 9月1日 金曜日
(平成29年)

知の創造

▷29◁



ものつくり大学への転出前の電機会社では、超精密加工機の設計・光ディスク原盤露光装置の開発・半導体研磨の安定化・医用機器部品設計などに携わってきた。企業では「世界一の高性能」を追求してきた。打ち込んだ研究・開発技術の実用化はあ

る程度達成したかな、という思いが正直ありました。

一方、以前から「グローバルの次は環境だ」と考えていました。東日本大震災と大学への転任を機に、精密機械システムを通じた「環境」をテーマに研究教育を進めていきます。研究テーマのいくつかを紹介しします。

■ハイブリッド型風力発電



佐久田 茂 製造学科教授

精密機器システムを通じた環境

さくた しげる 1961年生まれ。東京大学大学院精密機械工学専攻修士課程修了。工学博士、技術士(機械部門)。株式会社東芝生産技術センターを経て、2013年より現職。専門は精密機械システム。

上することで環境に寄与しようとするものです。太陽光パネルと風力発電機を組み合わせたハイブリッド発電は街中で見られますが、本方式も一種のハイブリッド型風力発電機構です(図)。

は、羽根に初速さえ与えられれば弱風でも羽根がスムーズに回転し、結果、トータルの発電効率が上がるという機能を有します。例えば、風力発電の効率を向

振動発電機構を風力発電のバックアップとして用いることで、風力発電の効率を向

根がスムーズに回転し、結果、トータルの発電効率が上がるという機能を有します。例えば、風力発電の効率を向

は、風向変化の際に生じる振動などをバックアップとして用いることで、風力発電の効率を向

は、風向変化の際に生じる振動などをバックアップとして用いることで、風力発電の効率を向

は、風向変化の際に生じる振動などをバックアップとして用いることで、風力発電の効率を向

は、風向変化の際に生じる振動などをバックアップとして用いることで、風力発電の効率を向

は、風向変化の際に生じる振動などをバックアップとして用いることで、風力発電の効率を向